

都市再生整備計画事業 事後評価シート

白子三丁目中央地区

平成29年2月

埼玉県和光市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	和光市		地区名	白子三丁目中央			面積	7		
交付期間	平成24年～平成28年		事後評価実施時期	H28年		交付対象事業費	1155	国費率	0.33				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名											
		基幹事業	土地区画整理事業										
		提案事業	事業活用調査(まちづくり満足度調査・公園ワークショップ)、まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会・地域ふれあい活動)										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業											
		提案事業											
		新たに追加した事業											
	交付期間の変更	当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更											
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
指標1		地区内人口	人	120	24	180	28		185	○	ありなし●	公共施設整備及び宅地造成が完了した箇所から、集合住宅の建築が行われたため。	平成29年6月頃
指標2		まちづくり満足度調査	%	51	24	70	28		54	×	ありなし●	事業の進捗が遅れたことによって、公共施設整備の整備改善による受益を受けることが出来なかったために低評価につながった。	平成29年6月頃
指標3											ありなし		
指標4											ありなし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス					都市再生整備計画に記載し、実施できた					● 新旧住民が交流を図り、共に地域の問題を解決していく場を構築する必要がある。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 地域ふれあい活動によって繋がった住民同士を、まちづくり活動へ発展させるために今後も防災訓練等を開催し、住民の主体的な組織作りを進める。			
					都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

白子三丁目中央地区(埼玉県和光市) まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
安全で快適な住環境を形成するとともに、地域住民のコミュニティ形成やまちづくりへの参画をはかり、住民による継続的なまちづくりを進める。		地区内人口	単位：人	120	H24	180	H28	185	H28
		まちづくり満足度調査	単位：%	51	H24	70	H28	54	H28

面積：7.0ha
施行期間
H24～H28年度
全体事業費
1,158百万円
国費：
418百万円

土地区画整理事業
まちづくり協議会
地域ふれあい活動

公園整備（１号公園）
公園ワークショップ

公園整備（２号公園）

<凡 例>
■ 基幹事業
■ 提案事業
■ 関連事業

面積：7.0ha
施行期間
H24～H28年度
全体事業費
1,158百万円
国費：
418百万円

土地区画整理事業
まちづくり協議会
地域ふれあい活動

公園整備（１号公園）
公園ワークショップ

公園整備（２号公園）

<凡 例>
■ 基幹事業
■ 提案事業
■ 関連事業

まちづくり協議会

地域ふれあい活動

まちの課題の変化	まちづくり協議会や公園ワークショップに参加する方が少ないうえ、参加するメンバーがほぼ同じ方である一方、アンケート調査等を行うと、これらに参加していない住民から様々な意見が寄せられている。 今後は、意見を持っている住民に協議会やイベントに積極的に参加してもらえるような呼びかけや企画を図る必要がある。 また、災害時における避難路の確保や住民同士の連携などについても検討が必要である。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	土地区画整理事業を更に進め事業を早期に完了させることにより、道路交通や災害に対する安全性が高まり、より安全で快適なまちを持続することが出来る。 公園を憩いの場や遊び場としてだけでなく、災害時の避難場所として活用できるよう整備を行う必要がある。 自治会やNPO法人の協力により、まちづくりや交流イベントを定期的に開催し、新旧住民や世代間の交流をより深めていく必要がある。 自治会やNPO法人の協力を得て、多くの住民が参加し交流できるイベントを定期的に企画しコミュニティを図ると共に、まちづくりの課題を検討・協議する継続的なまちづくり体制の構築を進める必要がある。

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	1号公園(仮称)	23	1,289㎡	0		交付対象事業からの除外	—		
公園	2号公園(仮称)	22	700㎡	0		交付対象事業からの除外	—		
公園	3号公園(仮称)	6	136㎡	0		交付対象事業からの除外	—		
公園	4号公園(仮称)	6	145㎡	0		交付対象事業からの除外	—		
土地区画整理 事業(都市再 生)	白子三丁目中央土地区画整理事業	1,087	7.0ha	1,087	7.0ha	平成27年2月の事業計画変更(事業 資金の変更)	補助対象事業の変更に伴い資金計画を見直したが、指標への影 響なし。		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	まちづくり満足度調査	2	約70人	2	約70人	なし	—	●	
	公園ワークショップ	1	4回	1	4回	なし	—	●	
まちづくり 活動推進事業	まちづくり協議会	4	20回	4	20回	なし	—		●
	地域ふれあい活動	4	4回	4	4回	なし	—	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	地区内人口	人	平成29年1月1日時点の地区内人口を聞き取り調査によって整理する。	120	H21	120	H24	180	H28	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	●	185	事後評価	○	
指標2	まちづくり満足度調査	%	平成29年1月に区画整理組合がアンケート調査を行いその内容を整理する。	—		51	H24	70	H28	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	54	事後評価	×	
指標3										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	元々住宅需要の高い区域であったため、公共施設の整備によって賃貸の集合住宅建築が進み、人口が増加した。	人口の目標値は達成したが、付近にスーパーなどの利便施設等が少ないことから、商業施設の誘致を行う必要がある。
指標2	事業の遅れにより、公共施設の整備による利益を享受できなかったことが満足度を向上できなかった原因であると考えられる。	従前値の%が記述方式であったことに対して、事後評価では選択方式にしたことから、記載方法に差異があったこと。
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
	単位				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
公園ワークショップ	予定どおり実施した	平成26年度に4回開催し、公園のイメージと大まかな利用形態のまとめを行った。	公園の実施設計が出来た段階で、その内容を公表する必要がある。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
まちづくり協議会	予定どおり実施した	平成25年度から平成28年度にかけて20回(予定)開催し、電柱の宅内建柱に関する合意形成やゴミ集積所の管理についての問題を話し合った。	引き続きまちづくりイベントの開催やまちづくり検討会の立ち上げに向けた活動を促す。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくり協議会 地域ふれあい活動	予定どおり実施した	まちづくり協議会を母体に持続的なまちづくり体制の構築を進めてきたが、まだ組織化にまでは至っていない。		引き続き、まちづくりイベントの開催等を行うことによって組織構築を目指すと共に、自治会連合会や防災訓練のイベントを母体とした組織作りも併せて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 構築に至らなかった)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
社会資本整備計画事業【白子三丁目中央地区】事後評価に係る庁内検討会議	・都市整備課 課長 ・道路安全課 課長 ・下水道課 課長 ・水道施設課 課長 ・公園緑地担当 統括主査	平成29年1月24日	建設部 都市整備課 区画整理担当

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4
指 標 名		地区内人口			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園(1号～4号公園整備事業)	○	土地区整理事業による道路整備、特に都市計画道路の整備によって集合住宅の建設、公園の整備に伴って安全・安心のまちづくりが進み、良好な住環境が整いつつあることが人口の増加につながった。		
	土地区画整理事業(白子三丁目中央土地区画整理事業)	◎			
提案事業	まちづくり満足度調査	—			
	公園ワークショップ(1号・2号公園)	—			
	まちづくり協議会	—			
	地域ふれあい活動	△			
関連事業					

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も更なる人口増加が見込まれることから、生活利便施設等の拡充を図っていく必要がある。			
-------	---	--	--	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標〇			指標〇			指標〇		
指 標 名		まちづくり満足度調査											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園(1号～4号公園整備事業)	××	事業の遅れにより公共施設の整備改善が進まず、利益を享受できなかったことや、建物移転が遅れたことでかえって不満が増加することになり、満足度の向上に繋がらなかった。	Ⅱ									
	土地区画整理事業(白子三丁目中央土地区画整理事業)	××											
提案事業	まちづくり満足度調査	△											
	公園ワークショップ(1号・2号公園)	△											
	まちづくり協議会	△											
	地域ふれあい活動	△											
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	公共施設整備を早急に進めると共に、まちづくり満足度調査のアンケート内に記入されている、各種意見や要望等を参考にまちづくりを進めていく。 また地権者だけではなく、新住民にも満足度調査を行い、新住民の満足度を把握する必要がある。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(社会資本整備総合交付金事後評価検討チーム)	・都市整備課 課長 ・道路安全課 課長 ・下水道課 課長 ・水道施設課 課長 ・公園緑地担当 統括主査	平成29年1月24日	建設部 都市整備課 区画整理担当

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
住宅需要に対する計画的な市街地整備により、土地利用の促進を図る。	公共施設整備によって集合住宅の建設が進み、宅地化農地の宅地利用が促進された。	未だ整備が進んでいない箇所があるため、早急に公共施設整備を進めると共に、防災・防犯対策も進めていく必要がある。	・人口増加に伴う生活利便施設の不足、建築ラッシュによる住宅需要の変化による住宅以外の土地活用の検討。 ・整備された道路の通過交通及び違法駐車対策。 ・農地や屋敷林の伐採によって、少なくなってしまった緑の再生。 ・以前からある自治会と区画整理区域との組織体制のあり方。
狭隘道路が不規則に入り組んでおり、公園等の地域住民の交流・憩いの場も不足していることから、公共施設の整備改善を図る。	道路拡幅や新設道路によって交通弱者や災害時の安全性が高まったと同時に、老朽化した上下水道の耐震化が進んだ。	公園については未整備であるため、早急に整備し地域住民の交流・憩いの場を確保する必要がある。	
事業の実施によって、新規住民の流入が想定されることから、新旧住民のつながりを深める必要がある。	公園ワークショップ、まちづくり協議会、地域ふれあい活動によって、地域住民同士の交流は深まり、まちの問題を自ら話し合って解決する意識が生まれた。	新住民の参加が未だ少なく、新旧住民の交流については課題が残ったままである。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	土地区画整理事業の更なる推進	終盤を迎えた土地区画整理事業を更に進め事業を早期に完了させることにより、道路交通や災害に対する安全性が高まり、より安全で快適なまちを持続することが出来る。	・土地区画整理事業の推進。 ・公園予定地の早期整備。
	多くの世代が参加できるイベント等の開催	自治会やNPO法人の協力により、まちづくりや交流イベントを定期的に行い、新旧住民や世代間の交流をより深めていく必要がある。	・自治会やNPO法人の協力によるイベントの開催。

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	地区内道路及び造成工事並びに地区外連絡道路の早期完成	土地区画整理事業を早期に完了させることにより、地区内道路の整備や造成工事が完了させると同時に、地区外連絡道路を道路整備事業や他の土地区画整理事業を進めることで改善させる。	・白子三丁目中央土地区画整理事業及び県道練馬川口線の交差点整備の推進。
	更なる交流イベントの企画・運営及び新住民に対するアンケート調査	まちづくり協議会を母体とする、まちづくり組織を立ち上げ、協議会で取り上げられなかった地域の課題や今後のまちづくりについて協議や検討を重ねていく。 また、新規住民にまちづくり満足度調査を行い、参加意識を高める。	・自治会や市の協力によるイベントの開催を通じてまちづくりへの意識を高め、新規住民を取り込んで継続的なまちづくり体制の構築を図る。
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

まちづくり協議会は、まちづくりによって生まれた新たな課題に対応するため、土地区画整理事業完了後も継続して検討・協議を進める組織づくりを目的としていたが、参加者が少ない事や主体的に協議を進めていく中心となる人物が見当たらないことから、当初の目的を達成したとは言いがたい。
今後増えるであろう新住民に対して満足度調査と同様のアンケート調査を行い、新住民の満足度を把握すると共にまちづくりへの参加意識を促す必要がある。

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値	年度	目標値	年度	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
	単位											予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	面整備による人口定着	人	120	H24	180	H24	確定		185	○	あり	●	→	平成29年6月	聞き取り調査による地区内人口の集計	
							見込み	●			なし					
指標2	まちづくり満足度調査	%	51	H24	70	H24	確定		54	×	あり		→	平成29年6月	新住民への満足度調査	
							見込み	●			なし	●				
指標3				H		H	確定				あり		→			
							見込み				なし					
指標4				H		H	確定				あり		→			
							見込み				なし					
指標5				H		H	確定				あり					
							見込み				なし					
その他の数値指標1				H			確定						→			
							見込み									
その他の数値指標2				H			確定						→			
							見込み									
その他の数値指標3				H			確定						→			
							見込み									



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	地区内人口については、無理のない実現可能な数値目標を設定すると共に、整備工事が可能な箇所から進めていったことで集合住宅の建築を促すことができた。	住民に分かり易いものや、参加意識が生まれるような数値目標を設定し、効果を住民同士で実感できる指標を設定することが望ましい。
	うまくいかなかった点	まちづくり満足度調査においては、満足度という漠然とした数値についての指標であったため、事前の予測が出来にくく数値目標としては設定が難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	住宅需要が高かったことから、公共施設整備並びに宅地造成工事が完了した箇所から住宅建築が始まり、地区内人口の増加に繋がった。	各数値目標が地区の課題や指標相互の関連を生じ、交付期間の当初から効果が実感出来る数値目標を選択すべきである。
	うまくいかなかった点	事業期間の延長に伴って、当初の予定より公共施設整備が遅れていることから、満足度において十分な効果を得ることが出来なかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	東日本大震災以降の災害に対する意識の向上を受けて、地域ふれあい活動を防災訓練として開催したことから、安心・安全なまちづくりを身近な問題として受け止め、参加意識が高まったこと。	地区内住民だけの参加ではなく、既存組織の協力を得てより広域な参加者を獲得し、行政を含めた相互協力体制の構築を進めるべきである。
	うまくいかなかった点	まちづくり協議会への参加者が少ないことがあり、継続的に多くの参加者でにぎわう環境作りに苦慮した。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	他地区による経験から事前に課題点の整理が出来ていたため、事後評価のスケジュールを管理が適切であった。	交付最終年度以前に数値目標が確定するような指標設定をいくつか行い、評価時点で成果を明らかにすることが望ましい。
	うまくいかなかった点	指標の内容が当初と事後評価の比較のみで中間がないことから、モニタリングや中間評価をすることができず、途中段階での指標の改善策を講じることができなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・白子三丁目中央地区(第2期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに評価結果を公表する	平成29年1月20日～2月2日 (2週間)	平成29年1月20日～2月2日	担当課への持参、 FAX、郵送もしくは電子メール	都市整備課 区画整理担当
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	インターネット及び都市整備課窓口にて閲覧できる旨の告知	平成29年1月20日～2月2日 (2週間)	平成29年1月20日～2月2日 (2週間)		

住民の意見	特になし
-------	------

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	鴈 咲子(跡見学園女子大学 マネジメント学部 准教授)	平成29年2月6日	建設部 都市整備課 区画整理担当	和光市組合等社会資本 整備総合交付金事業等 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	菅原 満(和光市議会議員) 湯浅 康之(越後山土地地区画整理組合事務局長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・成果の評価方法については適正に行われているが、「指標2まちづくり満足度評価」においては、土地所有者のみならず新住民に対してもアンケート調査を行い、新住民の意向を確認する必要がある。また、数値目標としては未達成であったが、アンケートの自由記入欄に記載された意見は、今後のまちづくりの課題として取り上げる事によって、指標としてまちづくり満足度調査を行った意味があるといえる。
	実施過程の評価	・適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・適正に実施されたことが確認された。 ・③効果発現要因の整理(添付様式4-③)でも記載されていたが、基盤整備を早急に進める必要がある。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適正に実施されたことが確認された。 ・市のHPにおいて原案を公表した際に、掲載方法をわかりやすく工夫する必要がある。
	その他	・まちづくり満足度調査は予測の難しい指標であるだけでなく、事業の進捗に大きく影響を受けるため、事業期間の長い土地地区画整理事業の指標としては、目標値を設定しづらい面がある。しかし、今後の指標の設定においてもハード的な指標だけではなく、ソフト面での指標の設定は可能な限り加えていく必要がある。また、満足度調査に伴うアンケートでは、権利者の率直な意見が聴取できるメリットがあり、指標としてではなくまちづくりの一環として定期的にアンケートを行うのは効果的であると考えられる。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後の課題として取り上げた集合住宅以外の土地利用について、地域の福祉に供する保育園や老人福祉施設(グループホーム)などの活用を積極的に促す必要がある。 ・地区北西部の県道との交差点については右折レーンを設置することによって、交通安全対策はもとより商業エリアの活性化に繋がり、事業に大きな効果をもたらすと考えられる。
	フォローアップ	・フォローアップは適切であると認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・妥当であると認められたが、今後のまちづくりに関する地域住民の参加や意向を確認しながら進めるために、まちづくり協議会については継続していく必要がある。
その他		・特になし。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--